

大学名

熊本大学文学部コミュニケーション情報学科

第55号テーマ  
「大学と文化・芸術」

表題

「今ある文化」をテーマとする新しい学問「現代文化資源学」



2019年4月、文学部コミュニケーション情報学科に「現代文化資源学コース」を新設しました。  
 “今ある有形・無形の文化、を対象に、「いまの日本」のマンガやアニメ、ポップミュージック、演劇、方言を収集・記録。文化資源として分析整理し、次世代に継承していく方法を研究します。そして、研究成果を国内外に発信していきます。”

大学院人文社会科学研究所  
(文学系)

こだま のぞみ  
児玉 望 教授

南インドの少数言語の言語史研究が専門。近年は日本語方言アクセント史についても新説を展開中



例えば「言葉」。危機に瀕した言語・方言も、映像や音声の記録があれば百年後まで研究が可能です。民俗学的手法を使って、フィールドワークで調査したものを保存するやり方もあります。伝統文化を研究する手法を活用しながら、同時代の文化を見ていくと、新たな何かが見えてくるかもしれません。



大学院人文社会科学研究所  
(文学系)

すずき ひろゆき  
鈴木 寛之 准教授

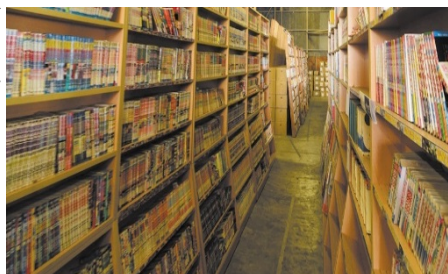
民俗学・口頭伝承論が専門。熊本市の文化財保護委員会委員も務める。マンガ文化にも造形が深い

今は注目されていないものも、百年後に残っていれば大いに意味のある資料となる可能性があるのです。そのため、このコースでは、文化資源の収集、分析整理の方法を学ぶことだけでなく、対象を「客観的に引いて見る」視点も非常に重要になると考えています。そして、文学部の普遍的テーマである人間とはどういう存在なのかという問いへの答え、そのテーマを考えることにつながるのではないかと思います。

→インドの伝統儀式での食事の支度。500年受け継がれた文化やコミュニティー言語も危機に瀕している。



→NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクトと連携して収集・保存しているマンガ収蔵庫。全国から希少本も寄贈されている。



→コースの新設を機に、2019年6月に熊本大学で開催された日本マンガ学会第19回大会のチラシ。一般市民も参加可能で、多くの地元メディアにも取り上げられた。

